

地域を繋ぐ蔵と橋

上台にあるギャラリー蔵の高山充さんとごぼう農家の茂木正行さんにお話を伺いました。

ギャラリー蔵の建物は、江戸～明治頃に建てられた土蔵です。高山さんは、10年以上前には敷地内の建物でそば打ち教室を行っていました。細谷小の子どもたちにそば打ち体験として教えていたこともあり、昔から絵を描くのが好きで、絵を描いたり飾ったりできる場所がほしかった高山さんは、3年前にギャラリー蔵をオープンしました。作品展示の他にダンスや音楽の練習にも貸出可能で、集会や喫茶スペースも配置された施設には、だんだんと人が集まってきて人とのつながり、コミュニティが生まれています。現在も人々の集う場として地元のみならず市外の人たちにも親しまれています。



現在、この地域はごぼうやいちご、にんじんなどの栽培が盛んですが、以前はかんぴょう農家が多いところでした。昔は農家の広い庭で盆踊りをしたり、釈迦堂 (P5 参照) で開かれるおまつりで駄菓子屋や馬車の荷台を舞台にした演芸なども行われ、老若問わず集まった人々を楽しませていました。



ギャラリー蔵の
高山さん



昭和23年まで、上台に住む子どもは下古山にある小学校に通学していました。姿川を渡る橋を通る必要があったので、大雨のときには橋を渡れず学校に行けないこともありましたが、細谷小学校区になってからは川を渡らずに済むようになりました。



姿川沿いに位置する細谷小学校区は、橋も多く、茂木さんは以前、橋の完成を祝う行事である「渡り初め」に参加しました。「渡り初め」は3世代揃っている家が選ばれ、橋の開通時に3世代の家族を先頭に参加者が橋が長持ちするように願いながら橋を渡りました。



ギャラリー蔵の近所にお住いの茂木さんには、らいさま10号と11号の取材にも協力していただきました。



上台の釈迦堂は上台農村公園の中にあります。



つながッテルね!
条例13条

(市民の責務)

- 第13条 市民は、次に掲げる責務を有するものとする。
(3) 自らがまちづくりの主体であることを自覚し、実践すること。